

## …遊びを生み出す子どもたちの発想…

子どもたちは暮らしの中で、人、もの、自然、出来事に意欲的に関わり、様々なことに気付いて遊んでいます。気付いたり探求したりしていることは表現されて友達に伝わり、遊びが展開します。表現することで目的や思いが明らかになり、やり遂げる喜びに結び付きます。その中で、新鮮で先入観などにとらわれない豊かな感性から生まれる**乳幼児らしい発想は、大人には予想できない関わり方に繋がる**ことがあります。そして、面白さを感じて繰り返す「遊び」になります。**子どもが遊びを生み出す場面は、「科学する心」(創造性)を見取ることが期待できます。**

### 子どもたちの発想が遊びの展開になったエピソード

#### 2歳児 [雨上がりの園庭には、あちこち水たまりがある。花壇の縁の台の上の皿にも雨水がある]

1歳児Aさんが、**皿の水に気付いて、指を入れる。指に付いた水を、台にツツンと付ける。**



隣で見っていた2歳児Bさんは、皿の水に指を付けて、**指で台に絵を描く。**



Bさんたちの姿に誘われて、「何しているの?」と**近付いた子どもたちも真似て始める。**



皿の水がなくなると、Cさんが**ジョーロで水を足す。**



その後

雨上がりの泥水に気付くと、**手や足でスタンピングを楽しむ**ようになる。



深井保育園

#### 4歳児 [園に隣接する公園は自然が豊かで、子どもたちが思い思いに関わる様々な草木がある]

「木が鼻水出している?」「何かな?」と、樹皮の不思議な様子に興味をもつ。**樹液だと分かり、樹液集めをする。**



何度も樹液を見たり触れたりする。**樹液の匂いや感触・性質など、いろいろなことに気付く。**



飼育しているカブトムシが成虫になる。**樹液を餌にしようと集めに行く。樹液が出ていないため集まらない。**



自分たちで材料を考え合い、**樹液作りをする。**公園の木に作った樹液を付けて、虫が食べる様子を観察する。



**カブトムシが食べる樹液作り挑戦する。**

P.32 関連事例

めるへんの森幼稚園

どちらの事例も、子どもが気付いたことや興味をもったものへの関わりを楽しんでいます。そして探索や探求をして気付いたり分かってきたりしたことを、自ら繰り返し楽しむ活動が遊びになっています。興味の対象に関わることで生まれる新たな発想により、子どもたちは創造力を発揮し、遊びを生み出しています。そして、遊びの中で様々な気づきや表現が引き出されて、更に膨らんだ思いを実現しようと繰り返す体験により、創造性が芽生え「科学する心」が育まれています。